調査結果についての報告

2012年6月3日
人材育成学会
「若者の成熟の現状と展望プロジェクト」
内藤淳

プロジェクトで設定した４つの仮説

仮説Ⅰ：6つの特徴が教員から見た高校生の成熟には含まれる

仮説Ⅱ：逆境の経験をどう受け止めるかが成熟に影響する

仮説Ⅲ：逆境の受け止め方には、本人の将来への希望や周囲の支援の存在が影響する

仮説Ⅳ：学齢期における発達課題を達成することが成熟の必要条件である
（逆境を乗り越える心的構えと能力の獲得）

仮説Ｉの6つの特徴

①自分の考えを自分の言葉で表現できる
②成長したいという意欲を持っている
③社会の動向に広く関心を持っている
④周囲からのアドバイスを受けとめる
⑤自分の行動と結果に責任を持てる
⑥考え方の違う他者の存在を受けとめる

調査票の構成　全体の構成

- 自由回答方式の質問とリッカート法による選択回答方式の質問で構成

・問1～問9　　自由回答部
・問10～問12　　選択回答部

調査票の構成（1）　自由回答部

＜成熟に関する質問＞
問1　成熟している生徒／していない生徒の特徴
問2　成熟に影響する要因（3つ）

＜逆境に関する質問＞
問3　高校生が遭遇する逆境
問4　逆境を乗り越えて成熟に至った生徒の特徴と対処

＜成熟が十分でないケースに関する質問＞
問5　教員の指導には従うが未成熟な生徒の特徴
問6　友人は多いが未成熟な生徒の特徴
問7　成績は良いが未成熟な生徒の特徴

＜退行／成長のきっかけに関する質問＞
問8　成熟していると思われた生徒の退行のきっかけ
問9　未成熟な生徒が急に成長するきっかけ

調査票の構成（2）　選択回答部

＜具体的な生徒を思い浮かべての質問＞

問10　内面的成熟が感じられた生徒の特徴

問11　内面的成熟が感じられなかった生徒の特徴

＜成熟の要因に関する質問＞

問12　高校生の内面的成熟にとってどれくらい重要か

※問10～問12の選択肢は、すべて同一の項目を使用

↓

本プロジェクトで検討を行い、成熟を構成する要素であると想定される高校生の行動や能力を表す項目を30設定

分析結果１　選択回答部（問12）

- 成熟の要因

・高校教員の視点から捉えた成熟の構成要素
・因子分析を行い５因子を抽出
（主因子法・プロマックス回転）

１）「社会的自己実現」因子
２）「勤勉性」因子
３）「自己顕示性」因子
４）「集団行動」因子
５）「規律性」因子

図表４　成熟重要度の因子分析結果

	質問項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
5	自分の行動とその結果について責任を持つことができる	.699	-.165	-.206	-.013	.265
11	自分の考えを自分のことばで表現できる	.694	.180	.059	-.095	-.064
28	自分と考え方の違う他者の存在を、客観的に受け止めることができる	.667	.034			
19	高校卒業後の進路に関して自分なりの目標を持っている	.549	.226			
8	成長したいという意欲を持っている	.547	.005			
4	周囲からのアドバイスをしっかり受け止めることができる	.517	.085	-.113	-.135	.480
10	社会の動向に広く関心を持っている	.467	.172	.271	-.048	-.149
22	信頼しあえる友人がいる	.437	-.230	.144	.223	.247
12	授業をきちんと聴こうとする	.033	.798	-.191	.113	-.008
26	予習・復習をして授業に臨もうとする	.005	.767	[illegible]		
21	定期試験の勉強に一所懸命取り組もうとする	.153	.745	[illegible]		
3	分からなかった内容は授業後に個別に質問をしにくる	.044	.551	[illegible]		
24	校則や社会的なルールを守って行動ができる	.104	.371	-.123	.357	.079
29	異性の交際相手がいる	.052	-.359	.820	.020	-.081
30	友だちや後輩などに勉強を教えてあげる	.103	.151	.572	.130	-.142
15	違反行為を見かけた場合は、その状況を教員に伝えようとする	-.177	.196	.518		
7	アルバイトをしている	-.199	-.069	.514		
14	身だしなみやおしゃれに気をつかっている	.181	.098	.445		
27	ボランティア活動に主体的に参加しようとする	-.018	.169	.428	.244	.077
9	各種検定や校外模試などに主体的にチャレンジする	-.074	.323	.401	.065	.094
25	学校行事に前向きに取り組もうとする	-.101	.158	-.120	.772	.124
16	クラス内の仕事や役割を率先して引き受けようとする	.000	.066	.019	.666	
18	縁の下の力持ちのような目立たない役割でも着実に遂行できる	.255	-.051	-.010	.654	[illegible]
23	下級生に対して優しく接することができる	.169	-.024	.207	.360	[illegible]
2	クラブ活動に休むことなく参加し続けようとする	-.106	.030	-.058	.319	.618
1	校内ですれ違う大人には、見慣れぬ相手でもあいさつができる	-.013	-.060	.168	.131	.555
13	上級生の指導に素直に従うことができる	.026	.234	.146	-.043	.420

社会的自己実現

勤勉性

自己顕示性

集団行動

規律性

「社会的自己実現」因子

- 項目例
  - 自分の行動とその結果について責任を持つことができる
  - 自分の考えを自分のことばで表現できる
  - 自分と考え方の違う他者の存在を、客観的に受けとめることができる
  - 高校卒業後の進路に関して自分なりの目標を持っている
  - 成長したいという意欲を持っている

「勤勉性」因子

- 項目例
  - ・授業をきちんと聴こうとする
  - ・予習・復習をして授業に臨もうとする
  - ・定期試験の勉強に一所懸命取り組もうとする

「自己顕示性」因子

- 項目例
  - ・異性の交際相手がいる
  - ・友だちや後輩などに勉強を教えてあげる
  - ・違反行為を見かけた場合は、その状況を教員に伝えようとする

「集団行動」因子

- 項目例
  - ・学校行事に前向きに取り組もうとする
  - ・クラス内の仕事や役割を率先して引き受けようとする
  - ・縁の下の力持ちのような目立たない役割でも着実に遂行できる

「規律性」因子

- 項目例
  - ・クラブ活動に休むことなく参加し続けようとする
  - ・校内ですれ違う大人には、見慣れぬ相手でもあいさつができる
  - ・上級生の指導に従うことができる

分析結果１　選択回答部（問12）

- 高校生段階の成熟度を評価する評定尺度を構成
  - 下位尺度の信頼性　.72～.87
  - 下位尺度の内部相関は、.34～.69

図表５　成熟重要度因子の下位尺度相関と平均、標準偏差、α係数

	社会的自己実現	勤勉性	自己顕示	集団行動	規律性	平均	SD	α
社会的自己実現	—	.639**	.341**	.624**	.515**	4.11	0.61	.85
勤勉性		—	.532**	.692**	.617**	3.65	0.78	.87
自己顕示			—	.538**	.513**	2.56	0.64	.79
集団行動				—	.664**	3.63	0.76	.84
規律性					—	3.56	0.79	.72
						*$p<.05$	**$p<.01$	

分析結果１　選択回答部（問12）

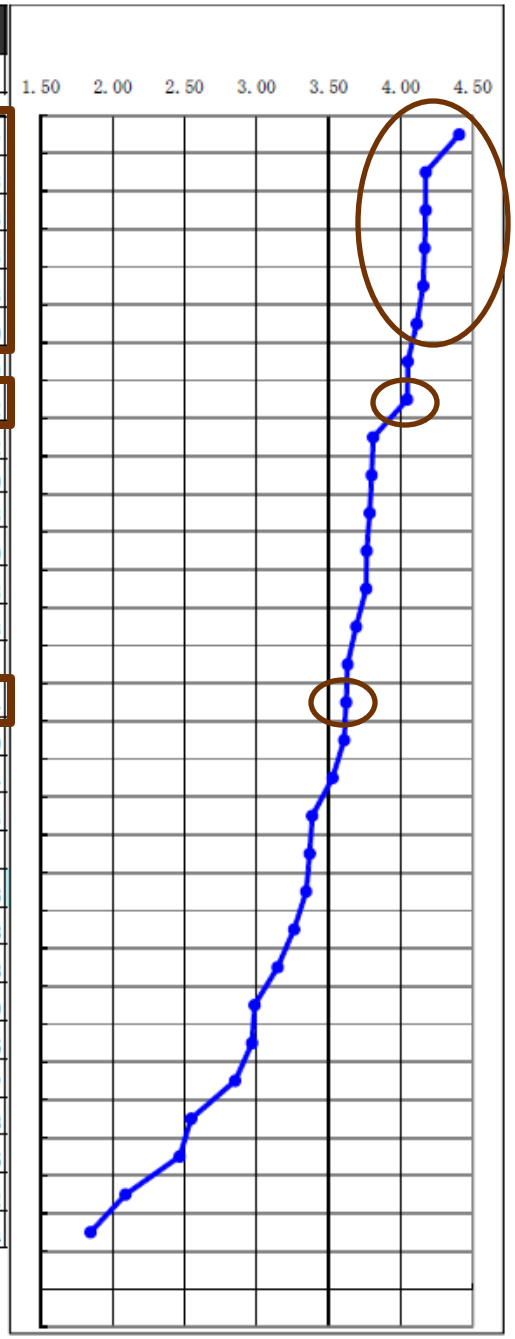
- 成熟の核と考えられる「社会的自己実現」因子
  - ・下位尺度得点（重要度）が他に比べて高い

図表５　成熟重要度因子の下位尺度相関と平均、標準偏差、α係数

	社会的自己実現	勤勉性	自己顕示	集団行動	規律性	平均	SD	α
社会的自己実現	—	.639**	.341**	.624**	.515**	4.11	0.61	.85
勤勉性		—	.532**	.692**	.617**	3.65	0.78	.87
自己顕示			—	.538**	.513**	2.56	0.64	.79
集団行動				—	.664**	3.63	0.76	.84
規律性					—	3.56	0.79	.72
						*$p<.05$	**$p<.01$	

図表３　先生が考える「高校生の成熟にとって重要な要因（降順）」

		重要度	
		288	
		平均	SD
5	自分の行動とその結果について責任を持つことができる	4.41	0.77
28	自分と考え方の違う他者の存在を、客観的に受け止めることができる	4.17	0.86
11	自分の考えを自分のことばで表現できる	4.17	0.88
4	周囲からのアドバイスをしっかり受け止めることができる	4.17	0.86
8	成長したいという意欲を持っている	4.16	0.88
19	高校卒業後の進路に関して自分なりの目標を持っている	4.11	0.90
24	校則や社会的なルールを守って行動ができる	4.05	0.89
22	信頼しあえる友人がいる	4.05	0.92
18	縁の下の力持ちのような目立たない役割でも着実に遂行できる	3.81	0.92
12	授業をきちんと聴こうとする	3.80	1.00
20	顧問やコーチに適切な言動で対応ができる	3.78	0.93
21	定期試験の勉強に一所懸命取り組もうとする	3.76	0.90
25	学校行事に前向きに取り組もうとする	3.76	0.93
2	クラブ活動に休むことなく参加し続けようとする	3.69	0.98
1	校内ですれ違う大人には、見慣れぬ相手でもあいさつができる	3.63	1.01
10	社会の動向に広く関心を持っている	3.62	0.94
23	下級生に対して優しく接することができる	3.61	0.90
16	クラス内の仕事や役割を率先して引き受けようとする	3.53	0.94
6	班やグループ等の集団をまとめることができる	3.39	0.96
26	予習・復習をして授業に臨もうとする	3.37	1.01
13	上級生の指導に素直に従うことができる	3.34	0.96
3	分からなかった内容は授業後に個別に質問をしにくる	3.26	1.03
27	ボランティア活動に主体的に参加しようとする	3.15	0.98
17	インターネット等を通じた直接知らない相手との情報交換は避ける	2.99	1.09
9	各種検定や校外模試などに主体的にチャレンジする	2.97	1.05
30	友だちや後輩などに勉強を教えてあげる	2.85	0.97
14	身だしなみやおしゃれに気をつかっている	2.55	0.98
15	違反行為を見かけた場合は、その状況を教員に伝えようとする	2.47	0.95
29	異性の交際相手がいる	2.09	0.92
7	アルバイトをしている	1.85	0.94



分析結果１　選択回答部（問12）

◦ 成熟の核と考えられる「社会的自己実現」因子

・下位尺度得点（重要度）が他に比べて高い

・事前に仮定した成熟概念と一致

①自分の考えを自分の言葉で表現できる　⇒項目11
②成長したいという意欲を持っている　⇒項目8
③社会の動向に広く関心を持っている　⇒項目10
④周囲からのアドバイスを受けとめる　⇒項目4
⑤自分の行動と結果に責任を持てる　⇒項目5
⑥考え方の違う他者の存在を受けとめる　⇒項目28

↓

すべてが「社会的自己実現」因子に含まれる

分析結果１　選択回答部（問10,11）

◦成熟している生徒と成熟していない生徒の違い

・それぞれ具体的な生徒を思い浮かべながら回答
・各項目ごとに両者の平均値の差に注目

↓

差が大きい上位5項目

社会的自己実現

項目4　「周囲からのアドバイスを受けとめる」
項目5　「自分の行動と結果に責任が持てる」

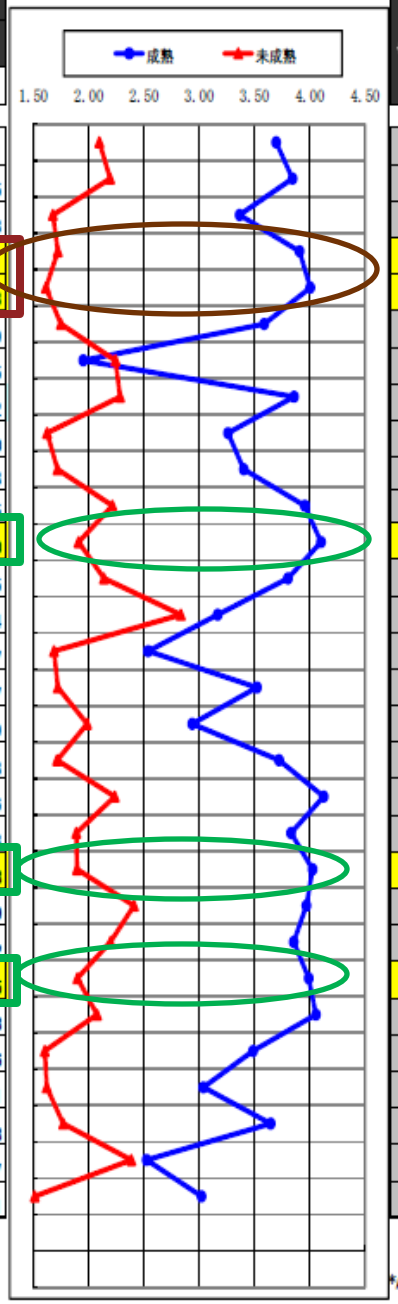
項目12「授業をきちんと聞こうとする」
項目21「定期試験の勉強に一生懸命取り組む」
項目24「校則や社会的なルールを守る」

勤勉性

図表２　「成熟群」と「未成熟群」の違い

		平均／SD 1 成熟		2		3 未成熟		t検定（1群-3群）	平均値差
		288				288			
1	校内ですれ違う大人には、見慣れぬ相手でもあいさつができる	3.69	1.16			2.10	1.11	**	1.60
2	クラブ活動に休むことなく参加し続けようとする	3.84	1.25			2.19	1.25	**	1.65
3	分からなかった内容は授業後に個別に質問をしにくる	3.36	1.19			1.68	0.93	**	1.69
4	周囲からのアドバイスをしっかり受け止めることができる	3.91	0.97			1.72	0.81	**	2.18
5	自分の行動とその結果について責任を持つことができる	4.00	1.02			1.61	0.73	**	2.39
6	班やグループ等の集団をまとめることができる	3.59	1.27			1.75	0.89	**	1.84
7	アルバイトをしている	1.95	1.33			2.24	1.45	*	-0.29
8	成長したいという意欲を持っている	3.86	1.01			2.28	1.02	**	1.57
9	各種検定や校外模試などに主体的にチャレンジする	3.26	1.27			1.63	0.80	**	1.64
10	社会の動向に広く関心を持っている	3.40	1.07			1.72	0.88	**	1.68
11	自分の考えを自分のことばで表現できる	3.95	0.96			2.22	1.05	**	1.74
12	授業をきちんと聴こうとする	4.10	1.02			1.91	1.00	**	2.19
13	上級生の指導に素直に従うことができる	3.80	1.05			2.14	1.05	**	1.66
14	身だしなみやおしゃれに気をつかっている	3.17	1.08			2.83	1.24	**	0.33
15	違反行為を見かけた場合は、その状況を教員に伝えようとする	2.54	1.03			1.69	0.87	**	0.85
16	クラス内の仕事や役割を率先して引き受けようとする	3.52	1.15			1.72	0.87	**	1.80
17	インターネット等を通じた直接知らない相手との情報交換は避ける	2.94	1.01			1.99	0.89	**	0.95
18	縁の下の力持ちのような目立たない役割でも着実に遂行できる	3.72	1.11			1.72	0.83	**	2.01
19	高校卒業後の進路に関して自分なりの目標を持っている	4.13	1.02			2.24	1.16	**	1.89
20	問題やコーチに適切な言動で対応ができる	3.83	1.13			1.89	0.88	**	1.94
21	定期試験の勉強に一所懸命取り組もうとする	4.02	1.07			1.90	0.98	**	2.13
22	信頼しあえる友人がいる	3.97	1.00			2.41	1.09	**	1.56
23	下級生に対して優しく接することができる	3.85	1.01			2.20	1.02	**	1.66
24	校則や社会的なルールを守って行動ができる	3.99	1.07			1.90	0.95	**	2.09
25	学校行事に前向きに取り組もうとする	4.06	1.03			2.08	1.03	**	1.98
26	予習・復習をして授業に臨もうとする	3.49	1.16			1.60	0.86	**	1.88
27	ボランティア活動に主体的に参加しようとする	3.04	1.12			1.62	0.81	**	1.42
28	自分と考え方の違う他者の存在を、客観的に受け止めることができる	3.65	1.03			1.77	0.78	**	1.88
29	異性の交際相手がいる	2.52	1.29			2.39	1.37		0.14
30	友だちや後輩などに勉強を教えてあげる	3.02	1.11			1.51	0.71	**	1.51

平均値差が大きいものに網掛け



*p＜.05 **p＜.01

選択回答部分析のまとめ

- ■高校教員の視点から見た高校生の成熟の要素は、5つの因子で捉えられる
- ■その中で中核をなすのは「社会的自己実現」因子である（仮説Ⅰを支持）
- ■実際の生徒をイメージした際には「社会的自己実現」と「勤勉性」が成熟／未成熟の差として捉えられやすい

分析結果２　自由回答部

- 分析の狙い
  - 設定した仮説の妥当性の検証
  - プロジェクトで想定していなかった成熟の構成要素や促進要因が存在するか
  - 成熟のプロセスに関する仮説を新たに設定できないか

分析結果２　自由回答部

- 分析の方法

・プロジェクトメンバーが自由回答の内容を概念のまとまりに分類して整理

・選択回答部の30フレームが使用できる質問には、分類の軸として使用（問１）

・整理した分類概念ごとに頻度をカウントした

↓

ただし、数値については参考程度にとどめ、文章全体から本質的特徴を抽出するよう努めた

分析結果２　自由回答部（問1）

- 成熟している生徒の特徴

・1/3は選択肢に設定した30項目に分類された「社会的自己実現」に関するものが大半

- 「自分の考えを自分の言葉で表現できる」
- 「自分と考え方の違う他者の存在を客観的に受け止めることができる」
- 「進路に関して自分なりの目標を持っている」

・30フレームに分類されないコメントで多いもの

- 「自律的に行動できる、問題解決できる」
- 「人の立場・気持ちの理解、思いやり」
- 「自己制御・落ち着き」

分析結果２　自由回答部（問1）

- 成熟していない生徒の特徴

・30フレームにはおさまりきらないものが多数
　- 幼稚で自己中心的、わがまま
　- 能力の未発達
　- 基本的生活習慣･学習習慣の未形成
　- 規範意識の未形成
　- 他者への無関心･思いやりの欠如
　- 他者への過度な依存・甘え
　など

・社会生活を営む上での基本ができていない状態
⇒初歩的な段階

図表７　成熟群と未成熟群の特徴のまとめ

比較の次元	成熟群の特徴	未成熟群の特徴
自己	・自分がある ・自分の考えを自分の言葉で表現でき ・自分を客観的にとらえられる、自分の立場を理解できる	・人に頼る行動、依存、甘え えない、自分の意見や気持ちをうまく表現できない ・一面的な思考しかできない
他者	・他者のことを考慮できる、思いやれる ・自分と考え方の違う他者の存在を、受け止めることができる ・周囲からのアドバイスをしっかり受け止める	・他人の気持ちを推し量れない わがまま ・教師の意見を受け入れない
制御	・感情を制御できる ・規範に従う、常識がある ・我慢できる（欲求充足の先送りができる	・自分の気持ちをコントロールできない 守れない、マナー ればよい
未来（社会）	・進路（将来）に対して自分なりの目標を持っている	・目的意識に欠ける
結果としての状態	・落ち着いている	着きがない

主体的に問題解決できる

相手の視点に立つ

感情・欲求の制御

規範に従う

落ち着き

分析結果２　自由回答部（問5～問7）

- <u>未成熟から成熟への成長過程に注目</u>

■教員の指導には従うが未成熟な生徒の特徴（問5）

■友人は多いが未成熟な生徒の特徴（問6）

■成績は良いが未成熟な生徒の特徴（問7）

分析結果２　自由回答部（問5～問7）

■教員の指導には従うが未成熟な生徒の特徴（問5）

○規範に従うことができる

↓

「自分から考えない、判断できない」
「主体的・自発的に行動することがない」
の２項目が有効回答の１割を超える

素直で表面的には従うが、自分から考えたり自己の意思にもとづいて行動したりしようとはせず、言われたことだけはやる

行動が機械的だったり、マニュアルを求めたりするばかりで、本質的なことは理解できていない

分析結果２　自由回答部（問5～問7）

■友人は多いが未成熟な生徒の特徴（問6）

○誰とでも楽しく仲良くできる

↓

「他者と深く関わらない・表面的なつきあい」
が有効回答の１割を超える

単なる遊び友達の関係であり、親友と呼べるような深い関わりは求めようとしない

趣味や興味が共通する同じようなタイプの生徒だけで集まることが多いが、葛藤と向き合う姿勢が希薄なため、何かトラブルがあるともろくも崩れてしまうような不安定な関係性に終始

分析結果２　自由回答部（問5～問7）

■成績は良いが未成熟な生徒の特徴（問7）

○言われたことやきまりは守る
○真面目にコツコツ努力する
↓
「学習態度・姿勢の欠如、周囲への無関心、応用力の欠如」と「コミュニケーション能力の欠如、人間関係を作るのが下手」との指摘が多い

・以下の２種のタイプに分かれる

1. 自己中心的で自分さえよければよいと考える
2. 受身・依存的で言われた範囲のことしかできない

分析結果２　まとめ（問5～問7）

一見問題がなさそうな生徒の成長プロセスの特徴

・プラスの特徴は成熟に必要なステップと考えられるが、それだけでは不十分である

○規範に従うことができる
○誰とでも楽しく仲良くできる
○言われたことやきまりは守る
○真面目にコツコツ努力する

成熟に向けもう一段ステップがありそう

×自分の意思で行動できない
×他者との深いかかわりを求めようとしない
×葛藤と向き合う姿勢が希薄
×自己中心的で自分さえよければよいと考える
×受身・依存的で言われたことしかできない

分析結果２　自由回答部（問3）

生徒が遭遇する逆境

・最も多いのは家庭環境、次いで入試・進路問題、交友関係上の問題、成績に関する問題、部活・クラス・行事に関する問題であった

・①自分ではどうにもならない事態（家庭の経済）
②自分の努力に見合う成果が得られない事態
③誰もが遭遇する事態
に３分類できる。

・生徒が遭遇する事態を逆境と感じるかどうかは本人の捉え方によるものと思われる。
⇒何が逆境かは、生徒自身に問う必要がある
（今後の課題）

分析結果２　自由回答部（問4）

- 逆境があったからこそ成熟した生徒の特徴

  - 先述した３タイプと比較して、成熟に近い生徒が多いとの指摘が多い
  - 「自分がすべきことを淡々とできる、努力家、粘り強い、あきらめない」「芯が強い、精神的に強い」「明るくポジティブに考えられる」等の回答が多い

    ↓

    逆境に対してあきらめず、努力する姿勢や精神的強さ及びポジティブな認知構造が見て取れる

分析結果２　自由回答部（問4）

逆境への対処

- 状況を受け止めて努力を続けるが最も多い
  - 腐らず自分の置かれた状況でできることをする
  - 忍耐を続ける中で受け入れる
- プラス思考、前向きな姿勢と取り組み
  - 自分で乗り越える意志の強さ、逆境を避けない、課題に正面から向き合う
- 教師が話を聴く、教師の励ましなどの教師側の努力や、周りにサポートしてくれる人や励ましてくれる友人がいるなど支援者の存在

受け止める　対峙する　周囲の支援

分析結果２　自由回答部（問4,5）

- 逆境（まとめ）

逆境を避けることなく受け止めて自力で対処するか、他者の支援を得るにしても依存的ではなく自分をしっかり保持している印象がある。

逆境なくして成熟なしという意見があったが、逆境に真摯に向き合うことが成熟に向けての欠かせないプロセスといえそうである。

↓

「仮説Ⅱ」と「仮説Ⅲ」の一部は支持された
（逆境→受容→乗り越え）

新たに設定した仮説

成熟のプロセス

【第２段階の成熟】

↑

【第１段階の成熟】

↑

【未成熟な状態】

逆境を乗り越えた体験

必要な能力の習得

基本的な信頼感

新たに設定した仮説

成熟のプロセス【第１段階】

- 言われたことや規則を守ることができるが、主体性は弱い
- まじめにコツコツと努力するが、目標観や目的意識に乏しい
- 自我は形成されつつあり他者と協調しようとするが、自己中心性、自信の無さ、他者と深く関わらないなどの傾向が見られる

↓

上記のポジティブな側面は、高校生段階までに身につけておくべき必須課題であるといえる

新たに設定した仮説

成熟のプロセス【第２段階】

- 規範が内面化しており（自分自身で意味づける）自律的に行動できる
- ありのままの自己を受容する（等身大の自己）ことができる
- 自分とは異なる考え方･行動をする他者を客観的に受け止めることができる
- 将来への展望、社会への関心、目標をもつ

↓

以上の核となるのが「社会的自己実現」因子であろう

新たに設定した仮説

成熟の前提となる能力

成熟した生徒は

- 自己の欲求充足を先送りすることができる（⇔刹那的衝動的な行動をする）
- 自己の感情をコントロールすることができる（⇔すぐにきれたり感情的な行動をする）
- 自己や周囲を客観的にとらえることができる（⇔自分中心又は依存的である）

↓

これらの能力には家庭におけるしつけや年齢的な成長が大きな影響を与えている可能性がある。

新たに設定した仮説

- 成熟の土台にあるもの

成熟した生徒は
・自分を信頼することができる
・他者を信頼することができる
・社会を信頼することができる
↓
それまでの成長の過程でしっかりした共同体や人間関係に支えられてきたかどうか、成功体験の有無などが影響していると思われる

今後の課題

今回の調査分析を通じて、本プロジェクトが当初設定した仮説は全般に支持されたといえる。

↓

今後は以下を調査・析出し、新たに設定した仮説の妥当性の検証に繋げていきたい。

・高校生本人が逆境をどのように受け止め、感じ、考え、行動しているか、その結果どのような事態に至ったか

・高校生本人の人格特性や本人を取り巻く環境要因はどのように関わり影響を与えているか